

令和元年度“超”を目指す軸受技術研究会報告

“超”を目指す軸受技術研究会（会員提案，19年度，主査 平山朋子）：本研究会は，軸受技術の基礎研究や応用・開発に携わっている者，気軽になんとか参加してみたい者が集っているいろいろな意味での“超”を議論し，情報を交換する場として運営されている．本年度は，委員数30名，平均出席者数は22名程度で，京都市内施設を開催場所とし，3回の研究会を開催した．研究会での講演タイトルは以下のとおりである．

第58回研究会（令和元年7月20日 於：京都大学楽友会館）①超音波法による油膜厚さ測定－多孔質焼結含油軸受への適用と今後の課題（米子工業高等専門学校 矢壁正樹），②なじみを考慮した工作機械すべり案内面の最適設計について（名古屋工業大学 前川覚，糸魚川文広），③工作機械に適用される直線軸案内機構の高精度化と高機能化（安田工業（株） 大下功）．

第59回研究会（令和元年10月5日 於：京都大学楽友会館）①機械学習を用いたすべり軸受しゅう動面状態監視への取り組み（福井大学 本田知己），②鋼の焼付き過程における発熱挙動と金属組織変化（日本精工（株） 松崎康男，九州大学 八木和行，杉村丈一），③静圧気体軸受の動特性解析についての思い出（元関西大学 森淳暢）．

第60回研究会〔トライボケミストリー研究会との合同開催〕（令和元年12月14日 於：KKR 京都くに荘）①MoDTC由来物質を混合した境界潤滑下におけるa-C:H膜の摩耗特性（名古屋大学 野老山貴行，K. A. M. Kassim，梅原徳次，村島基之），②トライボプラズマ研究の新展開（メゾテクノロジー研究所 中山景次），③放電プラズマによる油剤の分解－油剤分子構造の水素発生に及ぼす影響（協同油脂（株） 納山慧之，羽山誠，薫大明，メゾテクノロジー研究所 中山景次），④白色組織はく離とその再現へのアプローチ（（株）ジェイテクト 高橋譲）．

研究会終了後には，話題提供者を囲んで簡単な懇親会を設けることが慣例となっており，毎度，ざっくばらんな意見交換がなされている．次年度も軸受技術に関わる話題を基とし，年3回の研究会の開催を予定している．

URL: <http://www.maizuru-ct.ac.jp/control/noma/trib/tribology.html>